



開業からの歴史を記録した新聞記事の展示＝羽島郡笠松町田代、松波総合病院

松波総合病院でパネル展

羽島郡笠松町田代の松波総合病院で8日、開業からの歴史を新聞記事で振り返るパネル展「松波総合病院の昭和100年」が始まり、来院者が興味深そうに見入っている。5月8日まで。病院は1902年に前身の松波療院を開業。昭和を生きた先人たちの記録を振り返ろうと、岐阜新聞社の協力で開いた。

最も古いものでは開業年の広告など25点ほどを並べる。66年に掲載された松波賢吾院長(当時)のインタビュー記事では、民間病院では珍しかった救急車の導入について紹介。「とにかく、一分一秒を争う仕事。(中略)まずは、採算を度外視しなければ…」などど苦勞を語っている。

同日、除幕式があり、賢吾氏の長男で昭和5年生まれ、松波英一名誉院長(95)は「昭和は戦争があり大変な時代だった。おやじがこの笠松の地で頑張り、一流の病院にしてくれた」と懐かしそうに話した。

展示している紙面は、岐阜新聞デジタル紙面ビューアの媒体「別刷り」で読むことができる。

開業からの歴史新聞で見る